

水俣市の現地 を熱心に視察

スウェーデンの二学者

水俣病を研究するため熊本を訪れたスウェーデン水俣病医学調査班のマック・ベリン教授（同国ルンド大学衛生学教室）とA・スェンソン助教授（カロリンシヤカ病院職業病科医長）の二人は、二十五日昼まえ水俣市の現地を視察した。

両氏は熊本大学医学部病理学教室の武内教授らの案内で、水俣病患者が入院している湯の児のリハビリテーションセンターを訪れ、三隅内科医長から水俣病の発生当時の状況や患者の病状について説明を受け、患者一人一人の資料や訓練方法を熱心に見て回った。

一行はこのあと同市月の浦の患者宅や発生病現地を視察、久留米市の久留米大学に向かった。